

会報  
**おおいた**

俳人協会大分県支部

---

発行所  
俳人協会  
大分県支部

発行人  
俳人協会大分県支部  
代表者  
小松生長  
事務局  
大分市高崎3-13-14  
神足方(かみあし律)  
(題字: 江田 居半)

---

郵便局振替口座番号  
01740-3-24968  
俳人協会 大分県支部

# 「コロナ禍、自粛の中で」



大分県支部長 小松生長

令和三年も僅かとなってまいりました。会員の皆様、お元気でいらつしやいますか。コロナ禍のため自粛を余儀なくされ、総会は紙上で、また九州大会前に行われていた鍛錬句会も中止となつてしまいました。また、大分県で開催された九州大会でも事前の賀詞交換会、さらに当日句会と懇親会も中止となり、俳句大会は応募句のみの大会とならざるをえませんでした。世界中に蔓延する感染症の恐ろしさを考えますと、九州八県の俳人が集まる大会を中止せざるを

えなかつたことは当然のことであつたと思われまふ。

紙上俳句大会となつた九州大会でしたが、九州はもとより他府県からも俳句愛好家の方々のご応募をいただき、一九〇六句もの投句が集まり成功裡に終えることができました。これも各県支部長、各県結社主宰のご協力、ご尽力があつたからで厚くお礼を申しあげるとともに、多くのご投句を下さつた会員の皆様にも心よりお礼を申しあげます。大分県の投句者は一八三人、投句数は六四〇句でした。これは九州の中でもっとも多く、開催県としての皆様の情熱、意

欲、団結力を強く感じました。

このような状況の中で二年間に亘つてこの重責を担い、献身的に働いて下さつた支部役員、実行委員の皆様深く感謝申し上げます。

また、現在校正中ではありますが、来年五月発刊予定の『三十年史』につきましても、会員一四五名中一一八名の会員のご賛同を得まして各自十五句発表の「合同句集」へのご参加をいただいています。残念ながら高齢や入院のために参加できない会員もおられたこともここでご報告しておきます。冊子は来年五月の総会の折に皆様のお手

元にお届けすることが出来ると思つております。どうぞお楽しみにお待ちください。

それにいたしましても会員の高齢化や若い俳人・会員が増えないのは心配されることです。今後とも支部の活動をさらに盛んにし、結社を越えた多くの年齢層が交流できる句会の場を設けて行く必要があるのではないのでしょうか。協会の目的である俳句の興隆、会員の親睦、俳句の質の向上をめざして、来年も皆様と共にしっかりと学んで行きたいと思つていきます。



## (社)俳人協会創立六十周年記念 第十五回九州俳句大会

第十五回九州俳句大会は、公益社団法人俳人協会創立六十周年と同じ年に開催することとなり、記念大会として行いました。大分県での開催は、第四回(平成十一年)、第九回(平成二十一年)に次いで三回目です。令和元年の長崎大会以降、大会開催に向けて日を決定し、会場の予約や役員を増員して準備を進めて参りました。令和二年、予想もしていなかった新型コロナウイルス感染症が世界中に拡散し脅威を与え、オリンピック開催の是非まで賛否両論の意見が交わされました。

九州俳句大会は、二年に一度、九州各県が持ち回りで「九州各県の親睦をはかり、俳句の振興と普及を目的として開催する」という大きな意義を持っています。大分県支部では、役員会で検討を重ね、開催の是非について、本部と九州各県のご意見を伺った上で決定しました。各県の支部長、事務局長様からのアンケートは、大半が「開催したいがこの状況では中止が妥当」というものでした。このような状況から、今回の大分大会は、当日句会を行わず、「紙上句会」として開催致しました。

### 作品募集の経緯

【募集期間】 令和三年四月二十日(火)～六月三十日(水)

【作品募集】 二句一組(何組でも可) 四季雑詠 自作・未発表の句に限る 一般の投句も可

【投句料】 二句一組 千円 郵便小為替又は現金書留

九州計	大分県	沖縄県	鹿児島県	宮崎県	熊本県	佐賀県	長崎県	福岡県	九州管内
1836句	640句	138句	210句	100句	76句	82句	230句	360句	
555名	183名	40名	81名	31名	19名	21名	68名	112名	

合計	九州外計	中国四国	関西西	中部北陸	関東東	九州以外
1906句	70句	30句	14句	24句	2句	
571名	16名	5名	5名	5名	1名	

投句総数

【選者】

（本部推薦選者） 今瀬剛一・藤本美和子・柴田佐知子・野中亮介  
 （九州各県選者） 岸原清行・服部たか子・栗林白霜・深野敦子・西村泰三・和田洋文

【表彰】

・大会大賞1・準大会賞2・後援各社賞・選者賞（各特選1・秀逸2・佳作10）  
 小島照子・秋篠光広・阿部正調・大里えつを・大石ひろ女・辻原晚夏  
 永田満徳・宮城 章・淵脇 護・石川誠一・小松生長（敬称略）

【主催】

俳人協会大分県支部

【後援】

大分合同新聞社・NHK大分放送局・OBS大分放送・TOSテレビ大分  
 OAB大分朝日放送

# 第十五回九州俳句大会上位成績

## 大会賞

遠足が来てキリンの子歩きだす

長崎 永野 潤子

## 準大会賞

子を生みて育てし町や夏の雨

大分 有宗 眞弓

鯔食うて四方明るき豊後かな

宮崎 杉田 みづ季

## 大分合同新聞社賞

子を産みし力で割りき鏡餅

愛知 古賀 勇理央

## NHK大分放送局賞

梅漬けて日本の主婦ここにあり

鹿児島 尾上 春風

## OBS大分放送賞

山眠る窯の火鳴りをふところに

福岡 隈 可須奈

## TOSテレビ大分賞

土を咬む榕樹の気根沖縄忌

沖縄 金城 真理子

## OAB大分朝日放送賞

緑蔭の車椅子よりハーモニカ

鹿児島 前迫 寛子

# 選者の特選・秀逸句

今瀬 剛一 先生選

## 特選

子を生みて育てし町や夏の雨

大分 有宗 眞弓

## 秀逸

図書館も本屋も遠し春を待つ  
豆飯の匂ふわが家にもどりたる

大分 植木 修子  
大分 小倉 英司

藤本 美和子 先生選

## 特選

昨夜噴きし山の匂ひや落椿

鹿児島 小川 莎良

## 秀逸

目鼻立ち褒められてゐる春の駒  
麦を刈る筑紫次郎の際までも

福岡 永田 英子  
鹿児島 寶来 喜代子



柴田 佐知子 先生選

特選

ため息は安堵の一つ田植終ふ

秀逸

母の言ふ世間は狭し蛇苺  
狐火や埴輪の笑みは土中でも

野中 亮介 先生選

特選

ふらここや母の治療の終るまで

秀逸

敗戦日三枚複写に力込め  
沖縄忌地図に真赤な国境線

岸原 清行 先生選

特選

緑蔭の車椅子よりハーモニカ

秀逸

遠足が来てキリンの子歩きだす  
平和像拝し摩文仁の青嵐

服部 たか子 先生選

特選

遠足が来てキリンの子歩きだす

秀逸

星祭る粗末にしたる地球にて  
行けば肥後戻れば豊後薄原

栗林 白霜 先生選

特選

深山蓮華英彦の連峰まなかひに

秀逸

袋掛鳥にのこして置くところ  
緑摘む脚立の中の豊後富士

深野 敦子 先生選

特選

鯔食うて四方明るき豊後かな

秀逸

日の本を晴天にする桜かな  
廉太郎像へ月光惜しみなし

西村 泰三 先生選

特選

この人にもう気取らない心太

長崎 川岡 末好

秀逸

光るたび子供の顔も蛍色

長崎 藤本 修路

姿見に見られてうふふ春コート

佐賀 小浜 史都女

和田 洋文 先生選

特選

初夏の風ブラウスを膨らます

鹿児島 中島 典子

秀逸

一筋の風添へて売る風車

大分 益 美智子

菜箸の短き紐や秋日濃し

佐賀 香田 春枝

小島 照子 先生選

特選

商品に育つ子牛や夏の草

福岡 中嶋 重利

秀逸

山眠る窯の火鳴りをふところに

福岡 隈 可須奈

逆上り出来て逆さに山笑ふ

福岡 荒木 信夫

秋篠 光広 先生選

特選

薫風やよき切れ味の妣の鉦

大分 永松 多喜江

秀逸

吹く前の真水に浸す神楽笛

愛知 古賀 勇理央

芋焼酎吹きかけ蜘蛛を闘はす

宮崎 伊藤 容子

阿部 正調 先生選

特選

遠足が来てキリンの子歩きだす

長崎 永野 潤子

秀逸

春愁の少し手前でねむりたる

大分 斎藤 典子

向ひ家を遠くにしたる茂りかな

大分 永松 多喜江

大里 えつを 先生選

特選

はらからも妣の蛍も此処彼処

大分 宮崎 栄子

秀逸

余り苗ながき日暮を見てゐたり

佐賀 山口 峰華

子を生みて育てし町や夏の雨

大分 有宗 眞弓

大石 ひろ女 先生選

特選

望郷の沈寿官窯桔梗咲く

長崎 永福 倫子

秀逸

国東の石みな仏雲の峰  
牡丹にいちにち風の吹く日かな

福岡 木下 武久  
大分 田中 ひろ子

辻原 晩夏 先生選

特選

螢火や父母のこと妻のこと

大分 江藤 江野

秀逸

青簾隔て向こうは妻の城  
待つといふ静かな殺意がまがへる

大分 甲斐 梶朗  
大分 小田 祥子

永田 満徳 先生選

特選

子らの絵の雨みな黒し原爆忌

大分 高田 英子

秀逸

玄海の風を離さぬ鯉のぼり  
子を産みし力で割りき鏡餅

福岡 黒田 さだむ  
愛知 古賀 勇理央

宮城 章 先生選

特選

梅漬けて日本の主婦ここにあり

鹿児島 尾上 春風

秀逸

土を咬む榕樹の気根沖繩忌  
平凡といふ幸せの豆の飯

沖繩 金城 真理子  
大分 平田 節子

淵脇 護 先生選

特選

火口湖の天を昏めて鳥帰る

福岡 木下 武久

秀逸

入道雲火を噴く山を驚づかみ  
十人を産みし母なり甘藷植う

長崎 村川 雅代  
愛知 南 久美子

石川 誠一 先生選

特選

紅色の珊瑚産卵夏の月

沖繩 澤 聖紫

秀逸

シースルーの海月いずに隠し事  
雨止みし空押しし上ぐる花みかん

鹿児島 坂口 美恵子  
福岡 波止 萬里子

小松 生長 先生選

特選

どの花よりも向日葵の影の濃き

大分 小野 啓々

秀逸

子を産みし力で割りき鏡餅

愛知 古賀 勇理央

梅漬けて日本の主婦ここにあり

鹿児島 尾上 春風



大賞をいただきます



遠足が来てキリンの子歩きだす

長崎県 永野 潤子

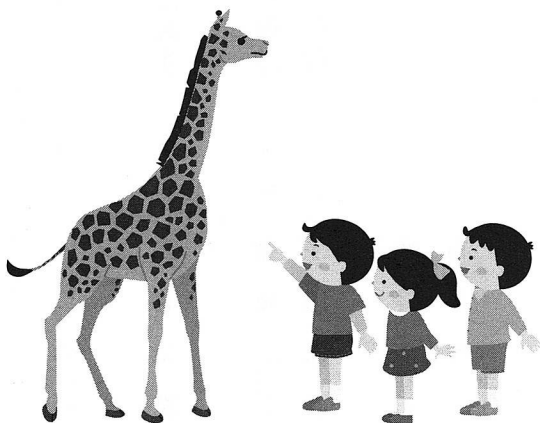


この度、(社)俳人協会創立六十周年記念第十五回九州俳句大会に於て大賞の栄に浴しましたこと、誠にありがとうございました。身に余る光栄に存じます。

選句を賜りました諸先生、大会実行委員会の皆様方に厚く御礼申しあげます。

受賞句「遠足が来てキリンの子歩きだす」は、当市の動植物園「森きらら」へ吟行の折の句です。園児達が遠足に来ていて、キリンさんキリンさんと呼ぶ声に應えるかにキリンは柵から首を傾げて見ていましたが、ゆっくりと歩きました。又、歓声があがり園児等も同じ方向に進み乍ら楽しそうでした。園児とキリンの可愛い光景を目の当りに致し詠んだ一句です。

俳人協会大分県支部実行委員会の皆様方の御労苦に感謝致しますと共に、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。





## 選を終えて



## 「心音を聴く」

## —九州俳句大会の選を終えて—

秋篠 光 広

応募数一九〇六句の俳句を読んで、改めて俳句は自分のためになるものだと実感した。己の魂を鎮めるためである。

俳句は解釈するものではなくて感じるものだと日頃いつている。作者の感性に季節の言葉を介して触れることで作者の心音を聴くことができる世界は一十一は二の世界ではないからだ。

己のための鎮魂と言えど独り言になりがちだが季語という季節を共有している俳句では作者の感動でもって読者の魂も鎮めることができる。

そのことを念頭におき大会応募作品を振り返ると選者の数だけ評価が異なるのは致し方ない。各々の鎮魂の在り様が異なり、選者もまた共鳴する音域が違うので全員一致にならねばという必要はない。

一人でも佳しとする読み手がいれば作者の心音は確かに伝わり、音は増幅され、そのためにまた多くの人に伝播されていく、時代をも越えて語り継がれる俳句になるのである。



## 「九州は一つ・再び」

阿部 正 調

第十五回九州俳句大会・大分は、平成十一年（第四回大会）、平成二十一年十月（第九回大会）に続き三度目の開催である。

今回は全国的に拡大の新型ウィルスのコロナ禍のため、協会本部、選者、九州各県の支部長、事務局長同意のもと、紙上句会で行われた。従来とは異なる九州大会となったが、各県の結社の皆様の協力のおかげで成功裡に終わり感謝に堪えない。

今回の大会賞の長崎県・永野潤子さんの作品「遠足が来てキリンの子歩きだす」は、文句なしの受賞である。周知の如く、長崎は俳句先進県で、大会の都度の好成績は注目的である。選句については、現状ではいたし方ないが、俳人協会以外の作品との出会いが欲しかったことである。これは前長崎県支部長（故西山常好氏）の主旨である「九州は一つ」であり、「俳句もまた一つ」である。それには伝統俳句しかり、現代俳句しかり、無季自由律しかり、「いいものはいい」と言える見識と、句界全般を見渡せる視野や九州独自の先取の気風と柔軟さが必要である。他の結社が会すれば、多様性のある多くの作品が観賞できる。「九州は一つ」を形骸化させないためにも結社や流派、小さな主義主張の枠を取り外して、他の結社の作家の参加と大いなる交流を望みたい。詩人の心底はどこかで通じている。同意を待みとするところである。

より高みの俳句を、九州から発信したいものである。

# ようこそ俳人協会へ

## 令和二年度新会員



三ノ宮晋二  
(水輪)

### 俳句の「旅」のはじまり

俳句を始めて十年、さっぱり進歩しませんがあせらず頑張っていると思っています。

退職後NHKの「はじめての俳句」に申し込むと、いきなり「旅」の題で三句作って来て下さい、と…生まれて初めての俳句(らしき)ものをもって教室へ、先輩の手順に従いながら緊張の中に絃文先生が入室され気さくで柔らかな笑顔に、すーっと肩の力が抜け…お人柄にぐんぐん引き込まれ不安が一掃、受講が楽しくなりました。先生はその日の投句の中から十句位を板書されましたが、中に自分の句「鯉こくにホツと息つく秋の旅」が、旅の秋に校正され…語意の違いを理解できたのはかなり後でした。まさにこれが私の初めての俳

句で、俳句の「旅」の始まりでした。その後「水輪」へ入会、多くの先達の御指導を受けながら楽しんで俳句を続けて行こうと思っています。

鯉とぶやフェリー 離るる月の海

晋二



石井明美  
(花鶏)

### 感謝

俳句を始めておよそ十年、季節の云々も知らず飛び込みましたが、すばらしい句友に恵まれ、励まされ今日に至っております。津久見に嫁ぎ四十数年、石灰の山ときれいな海、住みやすい温暖な気候など、とても満足した日々を送っています。現在津久見俳句会と「花鶏」に所属し、野中亮介先生の遠

弟子として踏ん張っております。仲々これと言った句はできませんが、一日の始まりから目に入るものを、又感じるものをメモ書きにし、夜読み返し歳時記を開いて思いを回らす時が至福の時間です。最初にも記しましたが、句友の存在は私にとってとても大きく日々感謝しております。

ずいき炊く母の厨は薄暗く

明美



松村れい子  
(少年)

### 「歳時記」に魅せられて

子育てが一段落した頃、身辺雑記を綴り新聞投稿を楽しんでおりました。俳句が趣味の伯母から「歳時記」を頂き、作句より先に歳時に魅せられていました。

いつしかカルチャーセンターの初心者俳句教室に学ぶようになってのは、自然の流れだったようです。故甲斐芹華先生の「積翠会」へ入会させて頂いたり、故首藤勝

二先生の御指導を受けたりしておりました。

平成二十五年、稲田眸子先生主宰の「少年」へ入会させて頂いて今日に至っております。私には特に秀でた感性もないのに、長く続けてこられたのは偏に俳句環境に恵まれていた事です。これからも俳句と共に心豊かに過ごせればと願うことです。

作句を始めた頃の思い出の一句

礁透く底の底まで夏の潮

れい子



渡邊暁子  
(水輪)

### 俳句と私

在職中から俳句を学びたいと思っていましたので、退職と同時に倉田絃文先生ご指導の俳句教室に入会しました。二〇〇三年に「落」入会、いくつかの教室、句会を経て、今はトキハ別府教室で古賀宣道先生のご指導を受け、別府句会と「水輪」で学んでいます。

引込思案で消極的な私を支えて、句会や教室、遂には俳人協会にまで誘ってくださった先輩の上島幸重さんには本当に感謝しています。野菜作りが趣味の私の俳句は「畑俳句」と呼ばれたこともありました。これからも野菜や花を育てながら俳句に親しんでいきたいと思っています。

客と剥き客をもてなす豆の飯  
暁子



近広君枝  
(蒔の里)

あろろいじ

渾身の母の念仏夏の塚

君枝

この句は生涯忘れられない戦時中の体験話です。私が十六歳の六月の夜でした。突然の空襲のサイレンに起こされました。アメリカの軍用機B29の編隊の来襲でした。当時はどの家庭も防空壕など備えていませんでしたが只各々の

家の庭や軒下などに畳一枚ほどの穴を掘っていました。しかし、そのときは水が溜っており、父がバケツで必死に水を汲み出したのですが、足首までの水に浸かって母としっかりと抱き合っただけで恐怖におののく時間でした。その間に、「南無阿弥陀仏」を唱え続けた母の声は今でも耳に残っていて忘れられません。その場面はずっと私の心から消えることはなく、今に続いています。



徳永榮子  
(水輪)

俳句をほじめて

白杵市の句会のひとつ『白杵南山句会』に入会して十五年になります。この句会は故・東恭生先生が主宰する会でした。今はコロナ禍で吟行や食事は控えています。句会では会員の方のお世話が続いています。

倉田絃文先生がお元気な頃、句会において頂きご指導を受けたら、『水輪』主宰の阿部王一先生の発

行所句会に参加したり投句もして努力しているところです。小学校に勤務し定年退職して二十年、まもなく八十歳になります。俳句は私の生活の大きな支えになっていきます。

ゲートルを捲いて山芋掘りし父  
榮子



吉本榮子  
(花鶏)

俳句とともに

ひよんな事から俳句との付き合いが始まった。一病を得て歩く事さえ、字を書くことさえままならぬ日々。お誘いは鉛筆一本で出来ますとの事。渡りに船か、私に出来るだろうか？その様な心配を余所に句会の皆様は色々世話をやき教えて下さった。有難かった。

現在私は、津久見句会と大分の豊の国句会の皆様と共に一喜一憂しながら俳句を楽しんだり、苦悩したりして過ごしております。又、『花鶏』主宰のすばらしい野中亮

介先生と出会えたことも。まさか電子辞書や歳時記が私の必需品になるとは。これからは孫のこと、身の回りのたわいない事、花を見て感じた事等詠みながら続けて行きたいと思えます。私の残りの人生が句になるなんて、なんと素敵な事でしょう。どうぞよろしくお願いします。

ときめきの恋とも違ふチューリップ  
榮子



牧野直樹  
(少年)

俳句との出会い

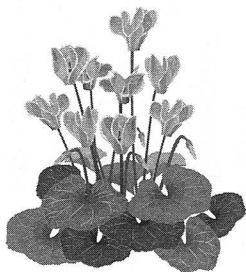
私は定年になり、このまま老いるのであれば何か新しいことに挑戦してみたいと考えていました。その頃、「かわず句会」を主宰している溝口直先生に誘われて入会しました。今まで俳句の経験は全くなく、ゼロからのスタートでした。

句会では他の人の投句に感心して、どうしたらこんな素晴らしい句が出来るとのか不思議でなりません

した。少しずつですが、自分で見  
た風景や心情をうまく十七音に表  
現できたらもっと楽しいだろうと  
思うようになりました。

今は自然災害やウイルス蔓延な  
ど突然の出来事によって、私たち  
の日々は大きく変わってきていま  
す。自分が生きて感じたことを俳  
句に写し取ってくれば、それで良  
いのではと思うようになりました。

俳句は作者が意図したことを読  
み手がそのまま解釈してくれると  
は限らず、それぞれの感性の違い  
で解釈するので、これも俳句の奥  
深さがあるように見えます。つま  
り、言葉のもつ想像力は視野を広  
げ他者を理解するきっかけを与え  
てくれます。また句会では多  
くの人々と知り合うことができま  
した。素晴らしい句に接する機会  
がふえ、もっと俳句を楽しみたい  
と思います。



「三十年史」ご応募に感謝

今年は十三夜月からよい月に  
恵まれました。院内町には龍岩  
寺があり奥の院洞窟に白木の三  
尊像が祀られています。奥の院  
での観月会は虚鐸の流れる中、  
月光で白々と浮かび上がる三尊  
像を拝し、句友と至福のひとつ  
を過ごせました。

前振りが長くなりましたが、  
この度は俳人協会大分県支部の  
「三十年史」に多数のご応募を  
いただき感謝申し上げます。五  
月末日で応募を締め切りました  
ところ、百十八名の皆さんにご  
応募いただきました。

いただきましたお便りで、「体  
が弱っておりますので。」の近  
況から「十年に一度のことです  
から。」等々、弱音と期待の言  
葉をたくさんいただきました。  
共通しての結びは「俳句をやっ  
ててよかった」「俳句に生かさ  
れております」という共感です。  
皆さんの句が来年五月には本に  
なります。今しばらく首を長く  
してお待ちください。

編集委員 松本公節

俳人協会創立六十周年記念  
第十五回九州俳句大会

実行委員会

顧問 問 秋篠 光広  
大会委員長 小松 生良  
副委員長 亀田多珂子

委員 阿部 正調  
市ヶ谷洋子  
中尾 豊子  
坂本多加江  
河野美千代  
松本 公節  
押谷 隆  
首藤 加代  
松本みゆき  
光成 えみ  
森本 育子  
かみあし律  
岩波千代美

事務局 長  
会計事務局補佐



実行委員の皆さん

◆編集後記◆

▼第十五回九州俳句大会が無事終わ  
りました。大分県は前回の第九回(平成  
二十一年)以来三度目の担当となり、  
九州の中では開催数が多い県だと思  
います。

今回はコロナ禍でやむなく「紙上句  
会」になりましたが、多くの力作を頂  
き、九州外からも「俳句文学館」の記  
事に載っていましたので、と投句をい  
ただきました。  
二十一名の選者の先生方には、二千  
句近い投句を選句して頂きましてあり  
がとうございました。改めて感謝申し  
上げます。

大分県からの投句は一八三名、この  
内県俳人協会会員は九一名でした。ご  
協力頂きました皆様にこの場をお借り  
してお礼申し上げます。

▼「座の文学」といわれる俳句。早く  
元に戻れる日を願うばかりです。コロ  
ナ禍も十月の大方は、感染者数0が続  
いていきます。来年からは、これまでど  
おりの行事が再開出来るのでは、と期  
待しています。

▼今年もあと一か月となりました。皆様  
お健やかによいお年をお迎えください。  
(律)

俳人協会大分県支部  
会報「おおいた」第四十三号  
令和三年十二月発行  
発行人 俳人協会大分県支部  
編集人 小松 生良  
事務局 千八七〇一〇八七二  
大分市高崎三二一三二一四  
かみあし律  
印刷所 〇九七五四六一二九三四  
(株)大分出版印刷